



4



2



1



1 高井神へき地出張診療所 2 7月11日(火)、高井神島で初めての診療に向かう鈴木医師 3 1ヶ月ぶりの診療に、いつもの倍近い患者さんが訪れた 4 患者さんの家族構成や生活に合わせた投薬をするため、看護師が患者さんと向き合って問診



3

魚島国民健康保険診療所で移動診療開始

離島医療の新たな可能性

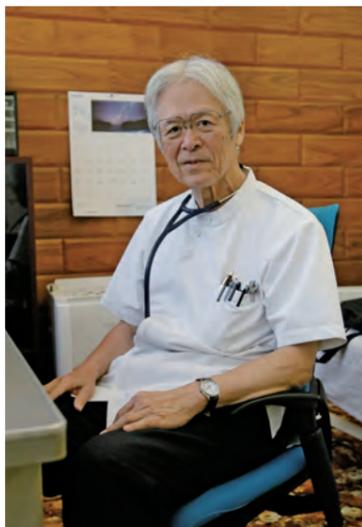


医師空白期間を埋める移動診療

6月13日(火)、無医地区となった魚島に、医師と看護師を乗せたヘリコプターが降り立ちました。これは、常勤医師確保までの医師空白期間を埋めるため、国内外の被災地や紛争地において緊急人道支援活動を行う特定非営利活動法人ピースウィンズ・ジャパン

(以下PWJ)に町が委託し、移動診療を行うもので、全国的にも珍しいケースです。

移動診療は、広島県神石高原町で地域医療に携わる鈴木強医師と看護師らがPWJのヘリで週2回訪れ、魚島国民健康保険診療所で毎週火・金曜日の14時から16時まで、高井神へき地出張診療所で毎週火曜日10時から11時まで診察します。



すずき つよし 鈴木強 医師(72)

PROFILE

鈴木クリニック院長 (内科・外科・胃腸科) 広島県神石郡神石高原町 福永 1441-2

島を訪れるのは初めて。時間ができたら釣りをやってみたい。

自身の力を試すため 神石高原町へ

20年前、無医地区を求め神石高原町へたどり着き、町唯一の医療機関であるクリニックを開業した鈴木医師。無医地区を選んだのは、知り合いもがらみも何も無い地で自分の力を信じて試したかったから。

新たな離島医療の可能性を模索

無医地区で20年間医療に携わってこられた鈴木医師に、魚島地区における理想の医療像を伺ってみました。「島の人たちは同じ医者にずっと診てもらいたいと思ってるでしょうが、医者にとつてそれは難しいと私は思います。医者は社会的に大きく貢献することが求められ、同じ場所にいると頭打ちになってしまいますから。私のような医師をストックして、ローテーションを組んでヘリによる移動診療を続けていき、急患はヘリで搬送する。これが、私が理想とする魚島の医療像です。ヘリの運用は費用対効果が悪いじゃないかと言われるだろうけど、私は、医療は費用対効果だけではない」と

お互い言うべきことを言える関係に

魚島や高井神島の患者さんからは「やさしい先生」や「ちゃんと話を聞いてくれるいい先生」と高評価の鈴木医師。「複雑だね。厳しくていい先生と言われるのが、私の理想です。患者さんは言うべきことを言って、私も言うべきことを言って応える。患者さんも医者も、お互い言うべきことを言い共に医療に向き合う。そんな関係を築いていきたいですね。でも、まだ来たばかりだから。厳しくしたら誰も来なくなっちゃうよ。しばらくはやさしい先生で、少しずつ患者さんとの関係を築いていきたいですね」と笑顔で語りました。

移動診療には心強いスタッフも同行します。「先生の考えでないという仕事はできない」と思っています。他のス

「複数だね。厳しくていい先生と言われるのが、私の理想です。患者さんは言うべきことを言って、私も言うべきことを言って応える。患者さんも医者も、お互い言うべきことを言い共に医療に向き合う。そんな関係を築いていきたいですね。でも、まだ来たばかりだから。厳しくしたら誰も来なくなっちゃうよ。しばらくはやさしい先生で、少しずつ患者さんとの関係を築いていきたいですね」と笑顔で語りました。